「群馬自然探索会 in 富岡」　報告

群馬県支部長　深澤恵子（Ｓ56 化学）

令和 7 年 11 月 9 日（日）に恒例の自然探索会を実施しました。出席者は大人 8 名と昨年も参加してくれた子供たち 3 人です。10 時に高崎市内を車 2 台で出発し、今年の探索地の富岡へ向かいました。世界遺産の富岡製糸場は全国的に有名ですが、県民の多くがすでに何度か訪れています。そこで今回は、製糸場 PR のため富岡市駅前に作られた世界遺産センターを見学し、最新の映像を見たり、蚕の成長を学びました。

昼食は群馬の郷土料理「おっきりこみ」という幅広のうどんを使った煮込みうどんや舞茸の天ぷらなどを堪能しました。舞茸は今や全国にありますが、最初に人工栽培に成功したのはここ富岡周辺なのです。この日は小雨まじりの天候で少し肌寒かったので、温かいうどんは美味でした。

昼食後今回のメインの群馬自然史博物館へ向かいました。ここは生命の誕生から進化を続け現代に至るまでの生物を取り上げています。特に圧巻なのは大型恐竜の骨組みや模型の展示です。私にとって興味深いものは、もし恐竜が絶滅しないで進化を続けたら？という模型で、ほぼ人間と同じような形でおへそがあります。他にも植物や昆虫や岩石などの展示もたくさんあり、何度行っても新しい発見がある所です。クマのはく製があり、思わず「大きいね！」と声が出てしまいました。折しも世間で連日クマ被害が報道されているので、これは怖いと感じました。

自然探索も自然豊かな山の方へは、熊騒動が収まるまで難しいねと今後の計画も考えなければなりません。たっぷりと博物館を見学したので外の恐竜型遊具や紅葉の散策は次の機会になりました。高崎に戻り解散。ご参加の皆さんありがとうございました。次は東毛地域に出かけようかと案が出ています。